

31  
networks

世界の31機関以上と連携しています。イギリス、オーストラリア、オランダ、フランスなどの政府系スポーツ機関やアジア各国・地域とネットワークを形成し、スポーツ発展のための相互協力・活動を行います。

オランダオリンピック委員会・スポーツ連合、地方公共団体と連携したパラスポーツの普及・発展のための事業なども行っています。JSC主導のASIAでは、アジア地域全体のスポーツ発展のために活動しています。



109  
medals

東京2020大会での109個のメダル獲得に貢献しました。オリンピック及びパラリンピック競技における国際競技力向上を図るため、選手強化事業への助成や、スポーツ科学・医学・情報面での研究・支援を行うとともにトレーニング環境の提供を行っています。

オリンピックメダルは58個で史上最多、パラリンピックメダルの51個は史上2番目でした。冬季競技も支援しており、北京2022大会においても最高の活躍がみられました。

1964

旧国立競技場は東京1964大会のメインスタジアムです。国立代々木競技場、秩父宮ラグビー場、戸田艇庫は、東京1964大会のレガシーとして愛され続けています。

2020

国立競技場は東京2020大会のメインスタジアムです。2019年に新しく生まれ変わり、開・閉会式や陸上競技において世界中のトップアスリートをお迎えしました。ハンドボール、ウィルチェアラグビー、バドミントンの会場となった国立代々木競技場は、国指定重要文化財となっています。



独立行政法人  
日本スポーツ振興センター

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35  
<https://www.jpnsport.go.jp>

2022.4  
リサイクル適性 (A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

日本語

未来を育てよう、スポーツの力で。

# JAPAN SPORT COUNCIL

日本スポーツの中核を担う公的機関です

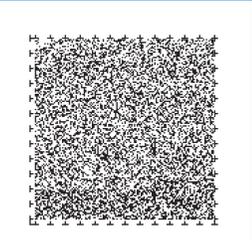
JSCは、「スポーツの力」で元気や感動、明日への力にあふれた未来を育てていきます。所管官庁の文部科学省をはじめ、各種スポーツ団体や地方公共団体と連携し、スポーツの振興と子どもの健康の保持増進を図っています。



884  
networks

地方公共団体と地域連携ネットワーク『JAPAN SPORT NETWORK(JSN)』を構築し、地域スポーツ政策イノベーションの推進に取り組んでいます。

JSNは地方公共団体の約50%(884団体)が参加し、最大規模のネットワークに成長しています。地域とスポーツの活性化に資するサービス提供を通して、地域スポーツ政策イノベーションを推進しています。



これはQRコードではありません。Uni-Voiceのご利用には専用アプリのダウンロードが必要です。Uni-Voiceの音声は英語になります。

Uni-Voice Q

## ハイパフォーマンス スポーツセンター (HPSC)

HPSCは、JISSとNTCが持つスポーツ科学・医学・情報による支援及び高度な科学的トレーニング環境を提供しています。オリンピック競技とパラリンピック競技を一体的に捉え、国内外のハイパフォーマンススポーツの強化に貢献しています。

### 国立スポーツ科学センター(JISS)

最新の器具・機材を活用し、より効果的・効率的にスポーツ医・科学研究、支援を行うための施設です。ハイパフォーマンス・サポート事業(スポーツ庁委託事業)では、選手村付近へのサポート拠点の設置等により、東京2020大会、北京2022大会においてもアスリートを支援しました。



フィットネスチェック

診療

### 味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)



競技別の専用練習場と共用コート、宿泊施設で構成されています。トップレベル競技者が同一拠点で集中的・継続的にトレーニングを行うための施設です。



柔道

833畳



水泳

50m×10レーン、水深3m

### 戦略的強化事業

中央競技団体の強化戦略プランの策定や実効化、アスリート育成パスウェイ構築の支援を通して持続可能な国際競技力向上を目指します。



## 日本のスポーツ 情報機能の強化

### 情報戦略事業



国内外のスポーツ政策・施策に係る情報を収集・分析し、地方自治体などへ政策提案を行います。

### 国際戦略事業



戦略的に海外ネットワークを構築し、スポーツ政策のための情報提供や連携事業につなげていきます。

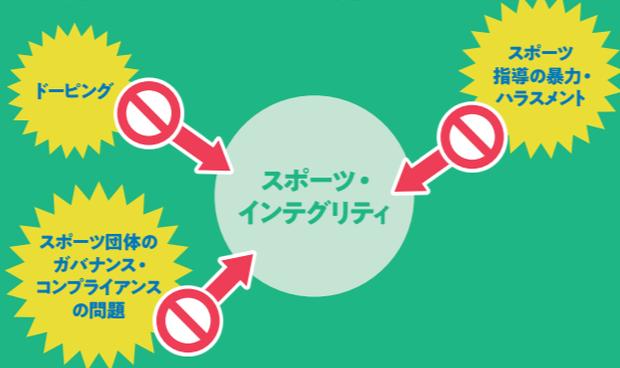
### Sport for Tomorrow(SFT)



政府が推進する国際貢献・交流事業の事務局を担い、スポーツの価値を204か国・地域、1300万人以上へ伝えました(2014~2021)。

## スポーツ・インテグリティの 保護・強化

スポーツにおける安全性・公平性・公正性の確保を目指しています。ドーピングとの戦い、暴力・ハラスメントからのトップアスリートの保護、スポーツ団体のガバナンス・コンプライアンス強化の分野において活動を展開しています。



# 202.9 billion yen

約2029億円をスポーツへ支援しています。スポーツくじの販売を行い、その収益によって、東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019、世界選手権などの国際競技大会、トップアスリートの発掘・育成、地域のスポーツ施設整備などに対して助成しています。

2020年度までに国際競技大会は190件、全体で2万8960件の事業に助成しました。



# 95% subscription

日本の約95%の児童生徒等が災害共済給付制度に加入しています。学校の管理下における災害に対する医療費等の給付を行うことで、円滑な学校教育の実施に貢献しています。



2020年度は、1631万人が加入し、年間約149万件の医療費や障害・死亡見舞金を給付しました。本制度から得られる事故情報データの調査研究を行い、事故防止への取り組みを支援しています。

# 10 facilities

各種スポーツの国際大会やイベント等を開催するスポーツ施設のほか、「HPSC」「国立登山研修所」「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館」の運営を行っています。

### 国立競技場



全47都道府県の木材を軒庇に使用した日本らしいスタジアムです。すべての人が安心して利用できるユニバーサルデザインも取り入れています。

### 国立代々木競技場 (第一体育館、第二体育館)



吊り屋根構造が美しい、建築家・丹下健三氏の代表作で、国指定重要文化財となっています。

### 秩父宮ラグビー場



東京1964大会のサッカー競技の会場です。現在は、国際試合、日本選手権などに利用されているラグビー専用競技場です。

### 味の素フィールド西が丘



国際試合、全日本大学選手権など幅広く利用されているサッカー専用競技場です。

### 戸田艇庫



東京1964大会のボート競技の関連施設です。ボート競技者の合宿や研修に利用されています。